

大門町の古民家活用方法に関する提案①

岐阜協立大学 小原慶祐 又吉紗弥 酒井涼香

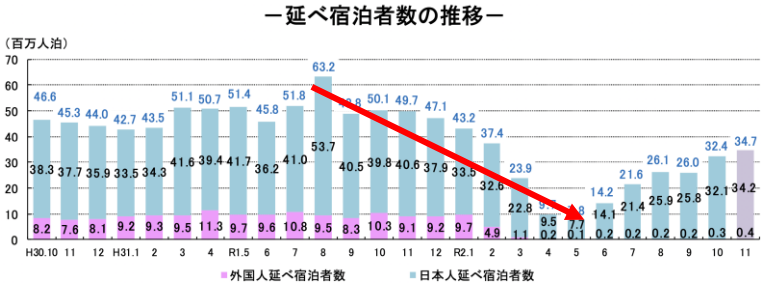
1 背景

現在高山市の観光入込客数は増加傾向を示しており、2011年の348万人から2017年においては462万人と大幅に上昇している。

しかし、近年コロナの影響によって、全国の延べ宿泊者数は、令和1年8月の6300万人から令和2年5月には700万人と大幅に減少している。

飛騨・高山コンベンション協会では、高山の課題として「地域資源の磨き上げ」を課題としてあげており、コロナ禍において今後高山の観光産業がコロナの終焉と共に回復していくには、「観光客が何を求めているのか」または、「どのような行動をしているのか。」等といったデータを蓄積し、そのデータをもとに都度高山観光を更新していくことが地域資源の磨き上げに繋がるのではないかと考えた。

高山市における高齢化率の推移



出典：高山市の人口推計

2 企画提案の目的

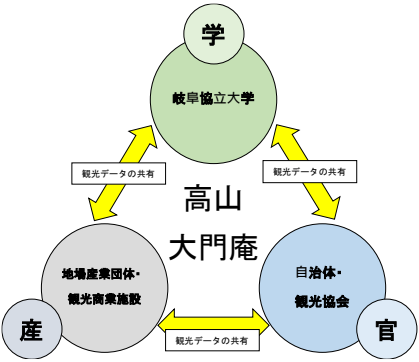
高山市の各団体、産業、住民等で連携・協働する仕組みを作り、高山観光を盛り上げること

高山市全体の活性化

3 企画コンセプト

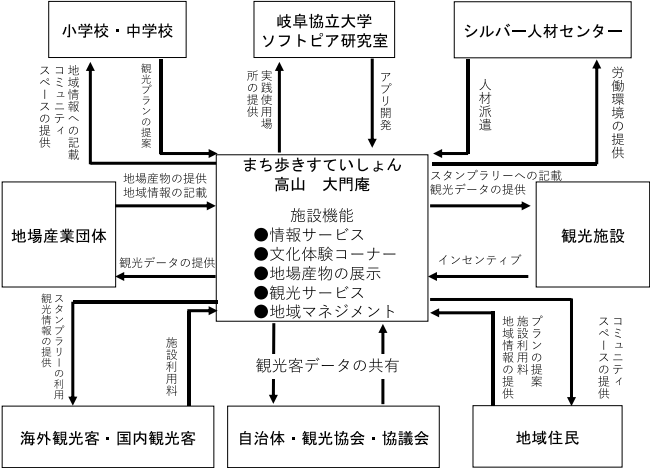
「高山の地域振興をアップデート」

各産業や、団体、観光施設または商業施設、自治体・観光協会と観光客データを共有し、連携・協働を図りながら高山市全体の活性化につなげる。



6 企画方針と狙い

- ①観光客の動向または、活動エリアなど様々な観光客データの収集と活用を行い、マーケティングや、集客活動につなげる。
- ②地場産業の方々にデータの提供またはフィードバックを行い、地場産業団体からは、地場産物を提供していただく。
- ③ 観光施設または商業施設においては、データ提供または、スタンプラリーコースの記載を行い、観光施設や商業施設からは、インセンティブをいただく。
- ④様々なリクエストを元に都度目的別にテーマを設定し、観光コースを作成する。
そして、自治体・観光協会と観光客データを共有し、連携・協働を図りながら高山市全体の活性化につなげる。



「街歩きすていしょん 高山 大門庵」が産・学・官の連携・協働の中心的な役割として推進していく。

そして、観光客データの収集と活用を3分野で共有していくことで地域資源の磨き上げが可能となります。そして高山の地域振興を都度「アップデート」していきながら高山市全体の活性化につなげます。

7 想定課題

1. 飛騨・高山コンベンション協会が示す課題のうち「地域資源の磨き上げ」
2. コロナによる影響で観光客が減少しているが今後どのように回復させていくべきなのか

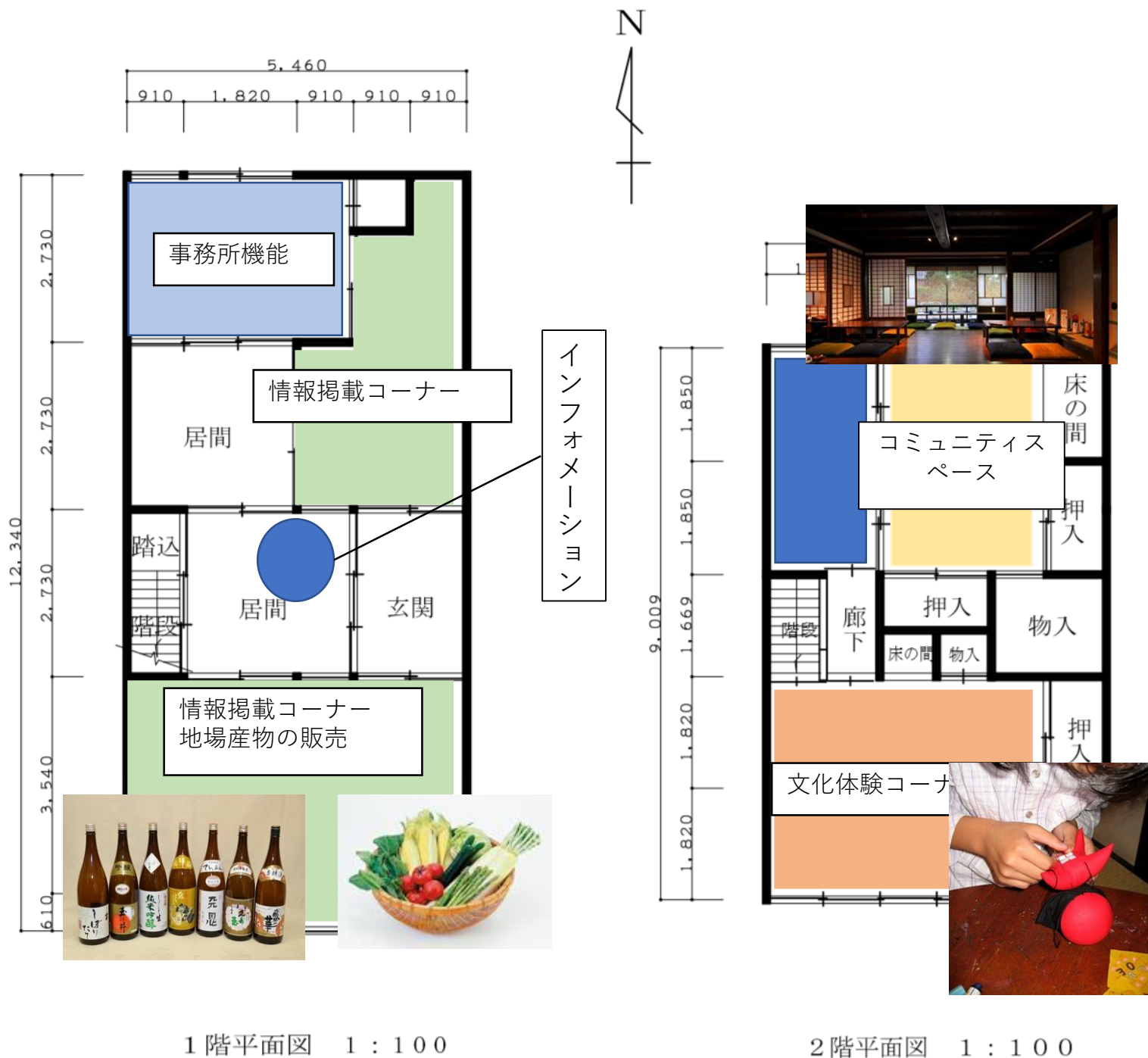
8 対策

- ・観光客データを収集・提供と、それらフィードバックとともに各産業、団体間で連携・共働することで都度地域資源の磨き上げを行える。
- ・地域資源の磨き上げに伴い①観光地間の差別化②一人当たりの観光消費額の増加③観光施設または、商業施設の入り込み客数の増加などの成果が見込める

5 施設機能

- ①高山市の文化体験コーナー
- ②高山の地域情報や、観光情報などの掲示、発信
- ③海外観光客の予約代行等を行う
- ④企画開発や、マーケティング、集客活動等といったマネジメント機能

5. 活用見取り図



1. 施設内容

- ① **コミュニティスペース**…地域住民や、海外観光客または国内観光客の休憩スペース
- ② **事務所機能**…企画開発・マーケティングなどのマネジメント機能、海外観光客の予約代行など
- ③ **文化体験**…さるぼぼづくり体験など
- ④ **情報掲載**…高山市の観光情報・地域情報の掲載
- ⑤ **インフォメーション**…受付、荷物管理受付

2. 収支モデル

文化体験収入

特産物販売収入

インセンティブ

管理運営費

修繕費

人件費

水光熱費

3. 運営方法

高山市の各地場産業団体と、ジルバー人材センターからの人材と、岐阜協立大学の学生らなど、人材においても産・学・官での連携・協働によって運営を行っていく。